

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	阿賀なかよし園			
○保護者評価実施期間	2025年9月16日		～	2025年10月22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数)	24名
○従業者評価実施期間	2025年9月16日		～	2025年10月22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月31日			

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	正社員3名とパート職員4名の計7名で運用し、利用児童10名に対し、常に職員5名(日によっては4名)が配置されている。	子供たちの宿題等の取り組みに関し、学習室で3台の机を使用し、職員1名(状況により2名)で3人を指導し、メインルームでも2名の職員で見守り、指導を行っている。プレイルームでは、子供たちの遊びを職員1名が見守っている。	対応に手のかかる子は特定の職員に任せる傾向があるので、総員で対応できるよう指導していく。
2	子供の活動スペースとして、メインルーム、学習室、プレイルームと分かれており、さらに、幅2m強、長さ15mの廊下では縄跳び、コマ回し、ゴム飛び等身体を使って遊べるスペースがある。	学習面で、個々の興味、関心の違いに対応しつつ、工作、手芸、塗り絵等を通して、目と指先の運動を高めるため機能訓練を実施している。 異年齢、異学年の児童が集まることから、子供たちに楽しんでもらうよう、毎回様々な遊びを企画し、コミュニケーション能力を高めようとしている。	
3	子ども達に関心を持つ取り組み バーベキュー、動物(ヤギ)とのふれあい、海洋生物とのふれあい等を適切な時期に実施している。	安全に配慮しながら、児童に渋柿の皮をむかせ、吊るし柿を作り、完熟したところで、皆に食べさせている。 梅を洗って乾かし、梅ジュースを作り、出来上がった梅ソーダでおやつ時間に頂いている。	

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	集団遊びは、毎週工夫しながら児童の身体全体を使った遊びや、頭を巡らせて活動する遊びを提供しているが、現在一人の職員が中心として行っていることから、マンネリ化してくる恐れがある。	正社員だけで作成している。	パート職員からの意見も取り上げてはいるが、もっと積極的、建設的な所見を求める。
2			
3			